

令和5年度

福岡県移住者子弟留学報告書

2023 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

02

渋谷 フェルナンダ エリカ（ブラジル福岡県人会）

西日本短期大学 メディアプロモーション学科

06

淵脇 健（パラグアイ福岡県人会）

九州大学 法学部

10

熊谷 山本 マルガリタ 春花（パラグアイ福岡県人会）

九州大学 経済学部

15

津留 ミカエラ（アルゼンチン福岡県人会）

九州大学大学院 歯学府

21

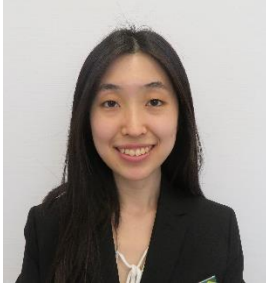
田中 ゴメス 愛子（メキシコ福岡県人会）

九州大学 経済学部

25

手嶋 儀武 さゆり ナンシー（ペルー福岡県人会）

九州産業大学造形短期大学部



ブラジル福岡県人会
渋谷 フェルナンダ エリカ
西日本短期大学 メディアプロモーション学科

4月10日、私は福岡に到着しました。到着してすぐに、私の研究と勉学にずっと付き合ってくれる指導教授に会いに行き、また、1年間日本で生活するための書類を整理し、日本の街を少し知るために出かけました。最初は、どうやって移動すればいいのかわからなかったし、初めての国だったので、少し不安でした。しかし、家族全員の祖国である日本を知るという最大の夢を実現できたことは、とても幸せなことでした。県費留学生だからこそ実現できた、魅力的でユニークな体験でした。このような経験は世界のどこにもないと思うので、誰もがこの機会を利用すべきだと思います。

この11ヶ月間の活動は、日本の文化や福岡の街をより深く知るという点で、とても充実したものでした。また、私たち留学生と家族会の人たちが出会い、交流する機会にもなりました。浴衣の着付け教室や茶道、日本式のビンゴやバーベキューなどのアクティビティにも参加し、想像していたのとは違った印象を受けました。年上の人たちとの活動が多いことは貴重な体験で、自分たちを飽きさせないイベントをたくさん計画していただき、とてもありがたかったです。

大学に関しては、日本の大学に行くのは初めてだったし、自分の研究テーマについて詳しく学ぶのも初めてだったので、驚きの連続でした。研究生という身分でしたが、日本の教育制度について学ぶのはとても興味深かったです。私にとっては、ブラジルにもない Promotion Media というコースだったので、とても楽しかったし、卒業後、テレビや舞台裏、伝統芸能に関わる仕事など、どこかの分野を専門的に学べるのも魅力的でした。大学が主催で様々なイベントがあり、授業以外にもリラックスした時間を過ごすことができました。大学での授業は、日本料理、日本舞踊、そして毎年行われる県の「どんたく大会」について学びました。とても興味深いものでした。どんたく大会では、多くのユニットが様々な芸術的なパフォーマンスを行い、観光客はもちろん、地元の住民にとってもとても魅力的で、屋台がたくさん出店し、実質的に一日中パフォーマンスが続きました。このように、日本・福岡の祭りに参加できたことは、大変良い思い出になりました。

また、日本の四季を楽しむこともできました。それぞれの季節は実によく定義されており、常にその時期に応じたイベントが行われていることを知りました。到着してすぐに、仏教寺院の春祭りに行くことができ、そこでさまざまなパフォーマンスを見たり、小さな寺院の中で行われた儀式に

参加したりと、パフォーマンスはそれぞれ全く異なるものだったが、太鼓の演奏、日本舞踊、合唱、さらには体操の形をしたコンテンポラリーダンスなど、あらゆるタイプの人々にとって非常に魅力的なものでした。季節ごとに旬の食べ物や飲み物があり、すべてがとても魅力的で、試してみたくなるようなものばかりであることが印象的でした。

私は、夏休みに静岡県にある富士山を見に行ったのですが、富士山は世界遺産に登録されているため、静岡県や静岡市は観光客で賑わっていました。富士山が世界遺産に登録されたことで、静岡県や静岡市は観光客で賑わうようになり、富士山に登りたいと思う人が常にいるのが身をもって分かりました。お盆休みに静岡に旅行したときは、新幹線に乗ってみました。新幹線は、停車中に日本の各都道府県を少しずつ見ることができ、どの瞬間も魅了されっぱなしでした。また、夏休みと冬休みを利用して、静岡県でちょっとした遊びをしました。そのおかげで、無雪期と積雪期、ほぼすべての時期の富士山を見ることができました。福岡に戻ったとき、山の近くと人口の多い都市の違いを実感しました。しかし、サンパウロを少し思い出しました。サンパウロはとても賑やかですが、博多の通りのように観光客はほとんどいません。博多は観光地であり、多くの人が買い物に行きます。

私は福岡の観光地の一つである博多座に行き、指導教授と一緒に舞台を観ました。舞台を構成する3つの演目すべてを観ることができ、舞台、衣装、舞台上の人々、そしてミュージシャンたちに衝撃を受けました。観客席には、主人公の行動をアナウンスする団員がいて、観客がより物語に集中できるようになっていることに気づきました。また、すべての登場人物が着ている伝統的な衣装にも感銘を受けましたし、生演奏の音楽にもすっかり魅了されました。また、狂言や能を鑑賞したり、能楽師と1対1で話をしたり、舞台に立って登場人物の一人になりきってみたりする機会もありました。衣裳はすべて演目のために作られ、能面も使用され、舞台での一挙手一投足が登場人物の性格付けのために重要であることを実感しました。能と狂言の違いは、能は悲劇、狂言は喜劇であることですが、同じ舞台(場所)を使うのにもかかわらず、歌舞伎の舞台とはまったく違いました。

県人会担い手育成招へい事業で2週間ほど福岡県に滞在し、自分たちの出身や家族の出身について学びました。とても忙しい日々でしたが、県北のお城や祖父の故郷、福岡で一番大きな茶畑があるところなど、県の名所をより多く見ることができました。短期間でしたが、とても楽しかったですし、子どもたちが国とつながるためにできる経験だと思います。

この1年間を通して、自分のルーツである日本・福岡で貴重な経験をさせていただき、自分の人生の中で大きなターニングポイントになった気がします。このような貴重な機会を与えてくださった、福岡県とブラジル福岡県人会、全面的にサポートしてくださった福岡県国際交流センター、家族会の皆さん、大学の指導教授やその他関わってくださった関係者の皆様に感謝します。ブラジ

ルに戻ったら、この経験を県人会会員に伝え、ブラジルと日本の架け橋になれるよう、積極的に県人会活動に参加していきたいと思います。



西日本短期大学

メディアプロモーション学科

教授 徳永 玲子

(渋谷指導教員)

渋谷フェルナンダさんは、日本の伝統文化・演劇表現等にご興味が有り、当学科に一年間 特別研究生として、在籍なさいました。

「演劇的所作」の授業で、浴衣の着付けと、日本舞踊の基礎を修めました。さらに「京の四季」のお稽古は個人レッスンを受け、お扇子使い等も上達、所作が美しくなりました。毎週木曜日の午前中、熱心にお教室に通い、こつこつと地道に努力なさっておいででした。

「演技」の授業では、発声練習や発音訓練、エチュード等の実技をご覧になり、メモをたくさんおとりになっていました。時にはグループ発表で仲間に入って演技を見せてくれました。ユニークな発想で驚かされたこともあります。

日本語の勉強の一環として、タイピング 3 級の練習も積極的に行いました。お習字やペン習字も体験し、上手になりました。その他、日本料理にも挑戦。学科の仲間と共に出汁から取ったお味噌汁、肉じゃが、だし巻き卵を作り、美味しくいただきました。

お能の体験、歌舞伎(博多座)や演劇(博多区ぽんプラザホール)の舞台鑑賞、日本の祭り(福岡市早良区の”藤ごもり“という祭りです)も見学しました。三味線の会(今藤会の家元の演奏)に参加して長時間、それは興味深そうに耳を傾けておいででした。

日本庭園「楽水園」や、博多の神社仏閣も訪ねました。住吉神社のパワースポットめぐり、東長寺の木造坐像の、大きな大仏様にビックリなさっていたのも印象的です。いつも、目をキラキラさせて、写真をたくさん撮っておいででした。

ブラジルからのお土産をみんなに配ってくださったり、歌の発表の折には学生のためにペンライトを振って下さったり、学科にとてもとけこんでいる様子でした。

今後、さらにイギリスに渡って勉強を続けたいと伺いました。世界中どこにいらしても、渋谷さんのルーツは此処にあるということを胸に、さらなる飛躍をお祈りしています。



パラグアイ福岡県人会
淵脇 健
九州大学 法学部

成田空港に着陸したときの気持ちを今でも覚えています。日本に来るのは15年ぶりだったので、ワクワク緊張しながら楽しみにしていました。その時は日本語もあまり話せなくて、話したくても言葉がなかなか出なかったです。

福岡に着いた頃には桜が満開でした。桜を見るのは初めてだったのでとても楽しかったし、本当に感謝して幸せな気持ちになりました。九州大学のキャンパスを訪問し、担当の先生にお会いすることができて本当に興奮しました。最初は少し緊張しましたが、すべてがスムーズに進んでよかったです。

約2か月間、日本での生活に慣れるのは大変でした。しかし、そんな時に祖父母の故郷を訪れることができると本当に良かったです。『こんなところにおじいちゃん、おばあちゃんが住んでいたのか』と思ういつも感動します。実際、僕自身、祖父母の故郷を訪れた際に深いつながりを感じました。それは言葉では言い表せない感情です。祖父母がパラグアイに移住してどれほどの苦勞をしてきたのかを深く感じるとともに、祖父母が生きているという事実には深い感謝の気持ちを抱きました。帰国して祖父母と福岡での経験についてお話しするのが楽しみです。ちなみに、夏休み中は淵脇家の故郷である鹿児島にも行く機会がありました。僕には生きている祖父の妹と親戚がいるので、福岡と違う魅力的な経験でした。

夏休み前までは大学で日本語の勉強をしつつ、会社法のゼミも頑張って勉強していましたが、日本語で日本の法律を学ぶことはなかなか難しかったです。この時は何回も自分に『本気でパラグアイの日本語学校で日本語を勉強するべきだった』と思う機会が多かったです。興味深いテーマなのに、あまりゼミの発表が分からなかったことが悔しかったです。しかし、夏休み後はだんだん日本語での法律の言葉がわかるようになってきて、今年一年、徳本先生のゼミに参加させていただいて嬉しかったです。色々たくさん学ぶことができ、日本の法律とパラグアイの法律を比べることが一番面白かったと感じます。また、法律の勉強だけでなく、日本社会についても学び、理解するようになってきました。パラグアイ社会と日本社会の間には、日系人の間でも大きな違いがあると感じています。パラグアイに戻って、家族、パラグアイ人の友人、日系人の仲間たちとそのことについて話し合うのが楽しみです。

もちろんパラグアイが恋しくなる時もありました。大学の友達ほとんど糸島のキャンパスの最寄り遊ぶこと多かったので、寮とキャンパスが結構離れていることで参加できないことが悔しいと思っていました。しかし、そういう時にちょうどタイミングがあってパラグアイの友達が何人か福岡に遊びに来てくれたことがありました。まるで生まれ変わったみたいで幸せでした。福岡の大好きな名物を楽しんで、パラグアイの友達と遊べるのが最高のコンビネーションでした！僕は本当に何かを好きになると、それに執着してしまう人なので大好きな福岡を友達に気に入ってもらって嬉しかったです！

10月か11月あたりになって、県費留学生としての半分以上が過ぎたことに気づき始めました。特に僕は色々よく考えることが好きで、日本文化がいかに偉大なものであるかを認識するようになってきました。日本人がいかに自国の文化を大切に、それをどのように維持しているかを理解できて本当に楽しかったです。浴衣、着物や茶道体験をできることがとてもありがたく感じました。このような経験は海外では非常に難しく、おそらく他の留学プログラム等でも経験することは難しいと思います。基本的に僕たちのルーツは日本です。そのため、海外で日本のソフトパワーを強化するには、これらの文化的表現を知ることが非常に重要であると考えています。さらに日本に来る前、僕は日系人の活動に積極的に参加していましたが、パラグアイでは世代が経つにつれて文化的価値が失われていくことに気づきました。そこで我々3世の日系人ももう少し頑張って日本の文化を大切にしなければいけないと思います。

おそらく僕にとってはクリスマスシーズンが一番良かったでしょう。個人的には一年で一番好きな季節で、熱波の終わりや寒い季節の始まりを楽しみました。クリスマスマーケットのイルミネーションを楽しみ、東京に旅行して友達と会い、パラグアイのように日本で新年を過ごすことができました。

パラグアイ国民と日本国民双方にとって、数十年前に結ばれた強い絆と関係を維持し、今後も互いに協力し続けることが重要であると思います。パラグアイは第二次世界大戦の惨禍から逃れてきた日本人移民に門戸を開いた国で、日本人はパラグアイの森林の真ん中で懸命に働き、パラグアイ経済を急成長させたということで、今後の交流も大変大切だと思いますので、帰国後も福岡とパラグアイの絆を大切にしていきたいと思っています。

福岡県、家族会、保証人、先生、大変お世話になった皆様に恩返しできるような善良な国民になれるよう、これからも人間的にも仕事の的にも成長していきたいと思っています。



九州大学 法学研究院

教授 徳本 穰

(淵脇指導教員)

淵脇健氏は、令和5年度福岡県移住者子弟留学生(県費留学生)として、この間、九州大学の方で、学ばれました。

淵脇氏の研究テーマは、主に、「日本における会社法について」というもので、九州大学では、主に、私が担当しています法学部の商法演習という講義に参加されました。

商法演習の講義におきまして、淵脇氏は、最初に、パワーポイントや写真等を多用しながら、出身国であるパラグアイについて、全体的に、分かりやすく、受講学生に説明をされました。多くの学生にとって、パラグアイについて、その地理、歴史、文化、制度等を知る初めての貴重な機会となり、非常に有意義なものとなりました。

また、商法演習の講義では、日本の会社法という法律につきまして、その内容や主要な課題等について、受講学生がグループを作り、グループ毎の発表に基づいて、全員でディスカッションを行うという内容の講義が行われましたが、淵脇氏は、その中で、非常に積極的に質疑応答を行うとともに、パラグアイの会社法の状況について、大変興味深い報告をされました。

法律の分野では、日本の法制度とは異なります諸外国の法制度を、日本の状況と比較しながら検討を行うことが、重要と考えられていますが、もともとパラグアイにおいて法律家でもある淵脇氏の報告は、このような比較法的研究において、多くの受講学生に対して非常に有益な刺激を与えるものであると同時に、淵脇氏にとりましても、日本の会社法を相対的・多面的に捉える上で、貴重な機会となったものと存じます。

淵脇氏は、この他に、九州大学におきまして、大学院の国際コースで提供されています幾つかの科目を聴講されました。

この度、淵脇氏は、令和5年度福岡県移住者子弟留学生(県費留学生)としての九州大学での研修を終えられましたが、パラグアイに帰国されてからも、ぜひ、この貴重な経験を基にされて、法律家としても、益々御活躍されますことを心より祈念申し上げます。



パラグアイ福岡県人会
熊谷 山本 マルガリタ 春花
九州大学 経済学部

私は小さい頃から日本に行く夢がありました。それは学校でいつも「日本に行ったことがある？」と聞かれていたからです。そんな時、私はいつも祖父母に連れられ、福岡県人会の交流会に参加していました。祖父母のお陰で色々な経験や同じ福岡から移住した人々に出会い交流をできることがとても嬉しかったです。福岡の歴史や町、祖父母が話す方言、伝統や文化に興味を持ち、留学があることを知り、希望しました。

その夢は叶い、桜とともに初めての日本生活がスタートしました。福岡県国際交流センターや福岡県海外移住家族会の方々に温かく歓迎して頂き、不安だった気持ちは安心に変わりました。新しい環境の中で、色々な手続き、時差ボケや初めての電車で戸惑いましたが、同じ留学生や周囲の方々のサポートのお陰で、徐々に慣れることが出来ました。

日本では四季折々で、春には満開の美しい桜の下でピクニックをしました。夏には海で泳いだり、スイカ割をしたり、浴衣を着て賑やかなお祭りや花火大会にも行きました。秋には、紅葉が楽しめて、夜のライトアップはとても素晴らしかったです。冬には、クリスマスのイルミネーションで街はどこもキラキラしていました。また、初めての雪を見る事が出来ました。残念ながら雪だるまは作ることが出来ませんでした。

一年間の中で多くの方と出会い、様々な形で日本文化に触れることが出来ました。県人会担い手育成招へい事業では多数の国からの子弟、引率者と一緒に複数の観光や体験を通して、日本と福岡の文化や歴史を学びました。この事業で同じ福岡県にルーツを持つ人達との出会いを大切にしていきたいと思いました。



また、福岡県海外移住家族会の色んな行事に参加する中で、色んな体験をすることが出来ました。花火大会、ヨット、野球観戦、餅つき、いちご狩り、柿狩りや浴衣の着付けを教わりました。

もう一つの夢は、日本の世界遺産である富士山に登山することでした。ちょうど、交流センターの方からチラシやガイドブックをもらって、準備をしました。知り合いにもおすすめのルートや必要なものを尋ねました。最初はとても楽な道でしたが、だんだん前へ進むと岩や激しい坂を目の当たりにして心配になりましたが、呼吸を整えながら少しずつ歩き、頂上に登る事が出来ました。少し霧がかかってはっきりご来光は見えませんでした、凄く綺麗で達成感を感じることが出来ました。その他にも、東京で行われたパラグアイフェスティバル、大阪のUSJ、姉がいる名古屋、別府の温泉、唐津の七ツ釜へ行ったりと、楽しい時間を過ごせました。



私は中本龍市先生のもと九州大学伊都キャンパスで経済を勉強させていただきました。前期では、企業に必要な戦略や経済戦略プロセスでした。講義の内容は興味深く、日本の様々な企業を例えにして説明してくれ、とても勉強になりました。他にも、九州大学で行われた講義に参加し、イオンの九州のSDGs実現に向けた挑戦を具体的に知ることが出来ました。そして最後に母国のプレゼンテーションをする機会を設けました。パラグアイの経済に関する事、日系企業、最も利益を出している企業や日本企業がパラグアイに少しずつ進出している事例を出しました。また、ホワイト企業とブラック企業の事や、現代と昔の就職活動の比較や就職活動に必要な能力、自己分析や企業分析を挙げてくれました。パラグアイにはそういった就職活動がないので、感心しました。

後期は、京都大学の生徒たちとインゼミを行いました。日本のリゾートトラスト、ドラッグストアの分析をプレゼンテーションで京大生と九大生が交互に紹介しました。皆さんの社会貢献の提案やプレゼンはまとまっていて、素晴らしかったです。最後に丸亀製麺を分析するグループの仲間に入れてもらい、企業概要、業務成績、成長性、投資の魅力とSDGsとしての社会貢献のあり方などを調べました。発表にも参加させていただきました。

日本の様々な企業で実地されているSDGsを勉強することが出来てとても嬉しく思っています。パラグアイに帰国した後はこの経験を活かし、自分の地域に貢献したいと思いました。



あっという間に過ぎたこの一年は、本当に感謝の気持ちと思い出でいっぱいです。このような素晴らしい機会を与えてくれた、福岡県庁、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会、パラグアイ福岡県人会、そして保証人を引き受けてくださった佐野さん、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

九州大学伊都キャンパスの中本龍市先生、私を受け入れてくださり本当にありがとうございました。素晴らしいご指導をして頂いたおかげで、日本の高度な技術、知恵や知識を得ることが出来ました。

帰国後は、日本で得た経験を生かし、祖父母の故郷である福岡県とパラグアイの絆を結ぶ手伝いをしたいと思います。パラグアイの福岡県人会の活動にも積極的に参加し、今後の活性化に貢献したいです。そしてより多くの人に参加したいと考える県人会を作り上げたいです。

これからもこの一年間の中で出会った人を大切に、今後また皆様に会えることを楽しみにしています。

皆様、本当にありがとうございました！



熊谷さんは、留学プログラムを通じて、学部のゼミナールに積極的に参加しました。彼女は自身の出身国パラグアイについてのプレゼンテーションを行い、学生たちにパラグアイの文化、社会、そして美しい自然環境について紹介しました。これらの活動は、学生間の相互理解を深め、国際感覚を養う貴重な機会となりました。

熊谷さんは、帰国後のキャリアに直接役立つ知識と経験を得るため、日本のピラティス教室運営に関するフィールドワークに特に力を入れました。彼女は、日本でのピラティスの実践方法や経営戦略を学び、将来自身のビジネスに活かすための貴重な洞察を得ることができました。

また、熊谷さんは、県人会活動にも積極的に参加し、浴衣の着付け、とんど焼き、イチゴ狩りなど、日本の伝統文化や農業に触れる機会を得ました。これらの体験を通じて、彼女は日本文化の奥深さと多様性を肌で感じることができたようです。このほかにも、彼女は、自分自身で積極的に、日本での体験を楽しみました。例えば、富士山の登山は、なかなかできない貴重な経験でした。この体験もまた、留學生活の充実度を高めました。

帰国後、熊谷さんは自分のビジネスに日本での経験を活かすことを強く望んでいます。彼女は、地理的には遠く離れた日本とパラグアイを結ぶ架け橋としての役割を果たし、両国間の文化的な交流と理解を深めることを目指しています。

熊谷さんの留学は、彼女の人生において忘れられない経験となりました。学術的な交流による成長はもちろん、文化的な体験や人間関係の構築においても大きな成果を挙げました。彼女が将来、日本とパラグアイの間で、文化的な架け橋として活躍することを心から期待しています。



アルゼンチン福岡県人会
津留 ミカエラ
九州大学大学院 歯学府

令和5年度の福岡県移住者子弟留学生として、アルゼンチン福岡県人会から来ました、津留ミカエラと申します。アルゼンチンのラプラタカトリック大学で歯科技工士を勉強しました。この一年間は非常に素晴らしかったです。日本での私の体験を共有したいと思います。

実は、2020年に来る予定だったのですが、新型コロナウイルスのせいで来ることができませんでした。2021年にも応募しましたが、またもやコロナの影響により、来ることができませんでした。ですので、今年来ることができたのは、何度も試みた後だったので、とても嬉しかったです。

この一年間、九州大学で歯科技工の勉強をするために日本に来ました。大学は電車で約20分かかりますが、私は歩くことが好きなので、毎日歩いて通学していました。歩くと約1時間15分かかります。みんなが歩いて行くのは大変だと言っていたのですが、実際には散歩はとてもしラックスできて、景色も美しいので、とても楽しんでいました。

日本での歯科技工士の仕事や使用される材料、機器について学ぶために来ました。日本はその革新性と効率性で知られていますので、特にCAD/CAM分野に焦点を当てて勉強しました。私の国ではあまりそのような機会がなかったため、日本で学ぶことに興味がありました。

大学では、病院での実務経験を積む機会がありました。歯科医師や歯科技工士が病院内でどのように働いているかを初めて見ることができ、その経験は彼らのロジスティクスや業務の仕組みを観察する上で非常に興味深いものでした。



担当先生や歯科医師、歯科技工士の皆様に、与えていただいた知識に深く感謝しています。また、私の日本語力が不十分な中でも、忍耐強く接して下さり、心から感謝しています。

留学生として来た理由は、単に自分の専攻について学ぶためだけではなく、自分のルーツについて知るためでもあります。家族会のおかげで、祖父母の生まれた柳川市を訪れ、その街について少し知る機会を得ることができました。

家族会にもとても感謝しています。家族会のみなさんの支援のおかげで、日本の様々な文化体験をすることができました。茶道体験や浴衣・着物の着用、陶芸の制作、いちご狩り、そして日本の伝統的なお祭りに参加することができました。いちご狩りに関しては、こんなにたくさん食べるとは思ってもみませんでした。70個以上も食べてしまいました！自分でも驚きました。地元の祭りや季節ごとのお祝い、文化イベントに参加することは、私の経験にユニークな要素を加えました。夏の花火大会から冬のイルミネーションまで、日本の伝統やお祭りにどっぷり浸れるチャンスを得ました。



7月に、子供たちの招へい事業が行われ、さまざまな国から11歳の子供たちが福岡を訪れました。残念ながら、アルゼンチンからは誰も来ませんでした。子供たちは約1週間、宗像市のグローバルアリーナに滞在しました。私は2019年の子供たちの招へい事業に青年リーダーとして参加していたので、久しぶりにグローバルアリーナを訪れ、たくさんの素敵な思い出が蘇りました。とても懐かしい気持ちになりました。県費留学生は子供たちをサポートし、一緒に小学校や小倉城、太宰府、プラネタリウム、そしてららぽーとに行きました。とても楽しかったです！

さらに、日本の様々な地域を旅する機会もありました。沖縄には母、姉、そして叔母と一緒にきました。母方の家族が沖縄出身なので、彼らのご縁により親戚を訪ねることができました。彼ら

のおかげで、沖縄の様々な場所を訪れることができました。沖縄美ら海水族館、玉泉洞、アメリカンビレッジ、そしてウクの浜などがその一例です。

夏休み中、他の県費留学生と一緒に大阪、神戸、京都を訪れました。さらにユニバーサルスタジオにも行きました！暑さやアトラクションの待ち時間の長さにもかかわらず、とても楽しい経験でした。特に、スーパーニンテンドーワールドを訪れることは、子供の頃から任天堂のゲームで遊んでいたの、まるで子供の頃に戻ったような感覚でした。



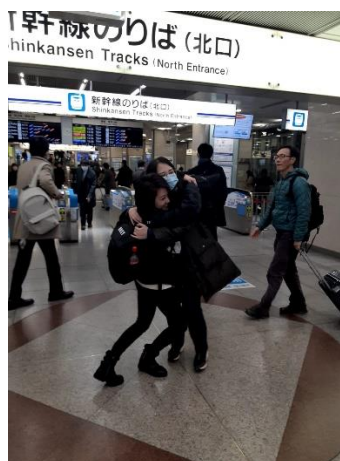
また、大阪城、梅田スカイビル、金閣寺、龍安寺、京都御所などを巡り、もちろんさまざまな食べ物も楽しみました。たこ焼きやお好み焼き、肉まんも美味しかったです、一番のハイライトは神戸ビーフを味わったことでした。



9月には、春花ちゃんとさゆりちゃんと一緒に富士山に登りました。頂上ではとても寒く、足の感覚がなくなりましたが、景色は素晴らしかったです。厳しい経験でしたが、とてもすごい経験でした。もう一度別のルートで登りたいと思っています！



来ることを楽しみにしていた理由の一つは、約4年ぶりに姉と再会することでした。新年を迎えるために、叔母と妹も日本に来て、一緒に過ごしました。妹と姉は約9年ぶりの再会であり、その様子を見るのは本当に感慨深いものでした。彼女たちがとても幸せそうである姿を見て、私も嬉しくなりました。私たちは一緒にユニバーサル・スタジオで新年を迎え、ジブリパークを訪れ、その後東京で叔父と従姉妹たちと再会しました。



この留学のおかげで、日本、特に福岡についてだけでなく、他の県費留学生の国の文化や伝統について少し知ることができました。彼らと一緒にこの一年を過ごし、一緒に生活する機会を得られたことはとても嬉しいことでした。

この経験は私の学業や文化的な成長に貢献しただけでなく、個人的な視点にも深い足跡を残しました。得た自立心、形成された友情、まったく新しい環境への順応力は非常に価値あるものでした。

日本での時間が終わりを迎える中、福岡県に感謝の意を表明します。国際交流センター、家族会員、担当の先生、そして県費留学生の仲間たちの寛容とサポートは、この経験を特別なものになりました。

広く豊かな視点を持ちながら、学んだ教訓を心に刻み、これらの経験をアルゼンチン福岡県人会の皆様と共有したいと考えています。アルゼンチンと日本の結びつきを強化し、お互いの文化を深く理解する手助けができればと願っています。

この留学は私の人生において重要な一章であり、福岡のコミュニティの一員として参加できたことに感謝しています。ここでの時間が終わると同時に、この経験と築いた繋がりは私の人生において永遠に続くでしょう。

九州大学大学院歯学研究院

教授 鮎川 保則

(津留指導教員)

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野では、県費留学生として津留ミカエラさんをアルゼンチンよりお預かりしました。ミカエラさんは歯科技工士免許を有しており、主に九州大学病院歯科技工部での研修を希望して来日しました。歯科技工とは患者さんのお口に装着する金属やセラミックの歯、入れ歯や矯正装置、マウスピースといった歯科技工物を製作する業務で、私たち歯科医師にはなくてはならないパートナーです。日本の歯科技工の技術は世界的に優れているといわれており、審美性を強く求められるアメリカ、特にハリウッドやビバリーヒルズといったセレブが集まる地域でも日本人歯科技工士が多数活躍しております。そのような先端歯科技工について、当大学では見学や実技実施を通して研鑽を図りました。

私個人としては、留学は主な学びのみに注力するだけでなく、international exchangeという言葉どおり、文化、習慣や留学先の多種多様な人々とのパーソナリティーの交換が重要と考えております。その点においてもミカエラさんは社会的に exchange をしてくれたと思います。幸い日本でお姉様であるアナパウラさんが勤務しており、ミカエラさんの助けにもなったとも思います。

わずか一年という短い期間でしたが、この事業で学んだことを帰国してもしっかりと生かしつつ、日本・福岡とアルゼンチンの架け橋になって欲しいと思います。また、本事業で私たちも大変貴重な exchange の機会を得ることができました。推進母体の福岡県、公益社団法人福岡県国際交流センターの皆様には心より感謝申し上げます。



メキシコ福岡県人会
田中 ゴメス 愛子
九州大学 経済学部

今年はいくさんの素晴らしい経験をさせていただきました。福岡に住み、勉強する機会を持つことができ、夢が叶いました。福岡での生活は初日から素晴らしい経験と学びがありました。福岡に来て、昔からの友達に会えてとても嬉しかったですし、今回の留学を通して、新しい友達にも出会いました。様々なイベントで皆さんと楽しい時間を過ごすことができとても嬉しかったです。

日本の生活は安心できる場所なのでとても好きです。そして日本の文化がとても好きで、到着した時は花見などのさまざまな経験をすることができました。美しい桜を鑑賞した後、授業初日を迎え、初めて九州大学に来ましたが、キャンパスの広さと美しさに驚きました。大学では経済学部在籍しており、中本先生のゼミに参加させていただきました。クラスメイトも先生もいつもとても優しくかったです。歓迎会もあってとても楽しかったです。

そして、中本先生の外国書購読1(英語経済)という授業にも参加させていただきました。この2つの授業では多くのことを学び、日本の大学での授業がどのようなものかを知ることができました。時には京都大学と一緒にZoomで授業をすることもありました。経済と経営の新しい概念を学びました。素晴らしい経験と学びでした。大学内でも景色の変化を感じることができ、この一年で学校に通うことができとても良かったです。夏はとても暑かったですが、木々は緑豊かで、秋は紅葉を見れて、冬は木々に葉はありませんが、梅のお花が少し咲き始めました。

それから、2023年7月に福岡でバブソン大学の山川先生の起業セミナーに参加できたことも、素晴らしい経験でした。多くのことを学び、新しい人々に会うことができました。私たちはチームで起業家精神に関するプロジェクトを行い、イノベーションに関する新しい概念を学び、いつか起業するという動機を与えられました。

そして、天神、博多、太宰府、福岡タワー、ももち、大濠公園、海の中道、香椎浜など、福岡の大好きな場所を満喫することができました。毎日美味しい食事やデザート、特に大好きなあんこの和菓子を美味しくいただきました。日本料理は本当に美味しいです。

それから、夏休みには友達と長崎を少し見ることができ、ハウステンボスに行くととても楽しかったです。

11月、だんだん寒くなってきた時に、大阪へ初めて行ってきました。とても綺麗で、食べ物はとても美味しかったです。そして色々な所へ行きました。梅田や難波やユニバーサルスタジオジャパンなど、とても楽しかったです。

さらにこの一年、家族会の方と素晴らしい思い出を作りました。小石原焼体験、ホームステイ、茶道などのイベントが行われました。

以前授業を受けた茶道では、日本文化についてもっと学ぶことができとても気に入りました。茶道の時に着物経験もできました。とても素敵な思い出になりました。浴衣の着付け教室もあり、8月には浴衣を着て花火を見に行きました。それは素晴らしい経験でした。

それからメキシコ、沖縄、新潟、韓国からの友人も福岡に会いに来てくれました。とても楽しかったですし、福岡の私の大好きな場所を案内することができて嬉しかったです。

クラシックバレエのレッスンを受ける機会もあり、福岡で大好きな趣味をすることができてとても素敵な経験になりました。先生はいつもとても優しくかったです。時々九州大学のプールで水泳することもできました。

日本で新年を祝うこともとても素晴らしい経験でした。日本人の友達と一緒に過ごし、日本の新年の伝統について教えてくれました。お蕎麦やお雑煮などをいただきました。そして護国神社に初詣に行きました。

この一年を通して多くのとても素敵な経験をしました。経験したことすべてを要約するのは難しいですが、それぞれの思い出が私の心にポジティブな印象を与え、文化、日本語について多くのことを学び、多くの人と出会えて、仲よくしてくれて、とても感謝しております。

メキシコに帰っても日本との関わりを続けていきたいし、日本語の勉強も続けて上達したいと思っています。また、メキシコ福岡県人会に貢献して、福岡とのつながりを保ち、文化について学び続けたいと思っています。このような機会を与えてくれた皆さんにとっても感謝しています。だからこそメキシコと日本にポジティブな貢献をしていきたいと思っています。行った場所、食べた美味しいもの、学んだことなど、福岡での経験をすべて教えたいと思います。また、福岡で出会った皆さんと今後も交流を続けていきたいと思っています。

また、いつか福岡で出会ったみなさんには、メキシコに来てもらいたくて、文化、食べ物、伝統などについて教えたいと思っています。素晴らしい交流になると思います。近いうちに福岡に来て、友達みんなに会いたいです。

この素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



九州大学大学院経済学研究院

准教授 中本 龍市

(田中指導教員)

田中さんは、留学プログラムに参加し、学部のゼミナールに積極的に参加することで、学部学生との間で意義深い交流を深めました。彼女は自身の出身国メキシコについて、紹介するプレゼンテーションを行い、学生たちにメキシコの文化、歴史、そして現代の社会問題について理解を深める機会を提供しました。この活動は、学生間での異文化理解の促進に大きく貢献しました。

さらに、田中さんは少人数制の外国書講読講義(活動)にも参加し、各国の起業家活動に関する深い知識を得ました。この講義を通じて、彼女は自身の将来のキャリアに有用なビジネススキルと起業家精神を養うことができました。また、大学の喫茶店運営サークルへの参加は、彼女にとって新たな文化体験であり、実践的なサービス提供のスキルを身に付ける貴重な機会となりました。

加えて、県人会活動への積極的な参加を通じて、田中さんは浴衣の着付け、とんど焼き、イチゴ狩りなど、日本の伝統文化や農業に触れる貴重な機会を得ました。これらの体験は、彼女が日本文化を深く体験し、理解する上で重要な役割を果たしました。さらに、以前の留学経験を活かして国内各地を訪問し、日本での人脈を温めるとともに、日本の多様な地域文化を体験する機会も持ちました。

留学期間中、田中さんは日本での学びや文化体験に対し、大きな満足感を得られたようです。特に、日本文化に触れることができたことについて、彼女は非常に喜んでいました。帰国後は、日系企業での勤務を希望しており、メキシコと日本の架け橋として、両国間の相互理解と協力の促進に貢献することを目指しています。

田中さんの留学は、学術的な成長、文化的な体験、そして人間関係の構築において、彼女の人生における貴重な一時となりました。彼女がこれからも学び続け、多様性を受け入れ、異文化間の架け橋として活躍することを心から期待しています。



ペルー福岡県人会
手嶋 儀武 さゆり ナンシー
九州産業大学造形短期大学部 絵画・立体造形系

あっという間に時間が経ち、もうすぐペルーに戻る日が近づいてきました。この一年間、日本について多くのことを学び、素晴らしい人々に出会い、忘れられない思い出を作ることができました。

子供のころから日本に興味があり、家族と一緒に日本の番組をよく見て、日本での生活はどんな感じだろうと思ったのを覚えています。2005年に初めて日本に来ました。日本とペルーの違いにとっても驚きました。その時には家族に会いに行ったり、色々な場所に行ったりすることができました。東京、初めて雪を経験した札幌、三重、沖縄に行くことができました。それから、日本文化に興味を持つようになりました。

2019年に世界大会に参加するために福岡に初めて来ました。世界大会では様々なイベントに参加でき、福岡について少し知ることができました。飯塚の祖父母の生まれた場所も行くことができました。来る前は福岡のことをあまり知らなかったのですが、来ることができてよかったです。その時、私は日本で学び、日本での生活経験を積むために、県費留学生として福岡に来ることを考えました。

正直に、このようなことをするのは初めてで、家族から離れて、あまり知らない言語を使うという事で不安を感じました。また、一人暮らしは初めてだったのでチャレンジでした。この経験を、人間として向上し、他の人々との関係を作り、日本についてもっと学ぶための挑戦として受け止めました。こうして日本で県費留学生としての経験が始まりました。

アートのことについていつも興味がありました。美術館や展覧会に行くのが好きで、そこでかなりの時間を過ごして芸術作品を鑑賞することができます。子供のころは趣味として自由時間を使って絵を描いていましたが、絵を描くことに専念する時間がなかなか取れず、少しずつ辞めていきました。勉強と仕事で、自分の好きなことに貴重な時間を十分に費やすことができませんでした。ですから、この機会を利用して自分の好きなことを勉強し、再び絵を描くことへの情熱を見つけました。九州産業大学造形短期大学部では絵画を学ぶことになりました。専門的に勉強するのは初めてで、とても興味深く楽しい経験でした。

この期間に自分の絵の描き方を見つけることができたと感じています。どの素材が一番好きで、どの素材があまり好きではないかを識別するのに役立ちました。自分の作品に自信が持てるようになった気がします。ここで初めて人物を描きました、正直下手ですが少しずつ上達できそうな気がします。

三つの展覧会に参加できました。最初は天神のギャラリー風で、二年生が2~3点の作品を展示しました。同級生やお客さんと話すことができました。とても興味深い経験でした。二回目は大学の香椎祭でした。最後は大学の卒業制作展に参加しました。私の作品はペルーをテーマにしています。作品を通して、出身でペルーについて少し紹介したいと思いました。作品では、ペルーのさまざまな典型的な動植物や有名な場所を描きました。美術展に参加する機会ができて嬉しかったです。



日本の陶芸を学ぶ機会もありました。いつも陶芸が好きで興味がありました。陶芸の授業はとても興味深かったので、この機会ができてとても嬉しかったです。最初はとても緊張していましたが、少しずつ小さな作品が作れるようになりました。陶芸はかなりの集中力と根気が必要だと思います。こんなにたくさんの陶器を作るとは思っていませんでしたが、20個ほど作ることができました。花瓶やお茶碗、お皿などを作りました。

今年は授業を通してたくさんの方のことを学ぶことができました。このような機会をいただけてとても嬉しいです。これからも自分のアート技術を磨き続け、より多くの人たちと自分の作品を共有したいと思っています。

今年は授業だけでなく、たくさんの方の体験をさせていただきました。家族会が企画したイベントのおかげで、日本文化を体験し、さまざまなことを学ぶことができました。香椎浜や筑後の花火大会を観たり、浴衣の着方を習ったり、陶芸をしたりすることができました。柿狩りやイチゴ狩り、餅つき、茶道、着物の着付けにも参加させていただきました。この一年間、多くの素晴らしくユニークな経験をしました。これらの瞬間を大きな愛情を持って思い出します。このようなイベントを企画し、一緒に楽しい時間を過ごして下さった家族会の皆様に心より感謝申し上げます。

7月は招へい事業がありました。ペルー、コロンビア、パラグアイ、ブラジル、トメアスー、カリフォルニアの福岡県人会が参加し、合計子どもたち10名とリーダー6名が参加しました。たくさん活動があり、とても楽しかったです。プラネタリウム、小倉城、福岡タワー、太宰府、ららぽーとや小学校へ行きました。初めて日本の小学校に行ったのですが、良い経験になったと思います。海外の日系人の子供たちに日本文化を知ってもらい、日本に興味を持ってもらうためにこのようなプログラムがあるのはとても良いことだと思います。



この経験で私が本当に気に入ったのは、他の県費留学生と一緒に時間を過ごすことができたことです。夏休みには一緒に大阪、京都、神戸に旅行したり、富士山にも登りました。

大阪では、大阪城、道頓堀、通天閣や梅田スカイビルに行きました。梅田スカイビルには本当に感動しました。ユニバーサルにも行き、たくさんのアトラクションに乗り、楽しい一日を過ごしました。京都では金閣寺、龍安寺、清水寺などに行きました。町を歩くだけで日本文化を少し知ることができます。私は歴史的な建物や古い建物を見るのが好きなので、京都に行くことができ嬉しかったです。神戸では有名な神戸ビーフを食べることができました。色々な場所に行き、美味しいものをたくさん食べるすることができました。

9月の初めに留学生2人、春花ちゃんとミカエラちゃんと一緒に静岡へ行きました。目標は富士山に登ることでした。疲れましたが、楽しい冒険でした。行きは青春18きっぷを使い、約1日半かかりました。登山に必要な靴、ザック、レインウェアをレンタルし、水や食料を買って富士山へ向かいました。長くて疲れる道で、頂上はとても寒かったですが、頂上に着くと達成感があります。少し曇っていたので日の出はあまり見えませんでした。しかし、頂上からの景色は素晴らしいです。機会があれば、別のルートでもう一度繰り返したい経験です。



卒業制作展に作品を見に来てくれた両親と一緒に長崎へ行くこともできました。その瞬間を彼らと共有できたことに驚きましたし、とても嬉しかったです。雲仙地獄に行きましたが、その温泉にはとても驚きました。稲佐山からは「1000万ドルの夜景」も見えました。稲佐山から眺める長崎市の景色はとても美しかったです。テーマパークのハウステンボスも通りました。ハウステンボスの風景はとても美しいです。チューリップとヨーロッパ風の建物が見られてよかったです。当時は人も少なかったですが、それでも光のショーを見たり、両親と楽しい時間を過ごすことができました。

それぞれの国への帰国の日が近づいてきた今、心の葛藤を感じています。家族とまた一緒にいられるのは嬉しいですが、同時にこの留学が終わってしまうのは寂しいです。日本で良い友達を作ることができたので、これからも交流を続けていきたいと思っています。この時のことをいつも懐かしく思い出しますし、この留学は、私が人間として成長するのに役立ったと感じています。

このような機会をいただけて大変感謝しております。私に留学してこの素晴らしい経験をするよう励ましてくれた家族に感謝したいと思います。私に福岡で学ぶ機会と支援を与えてくださった福岡県交流センターとペルー福岡県人会に感謝します。いつも優しく接し、家族のように感じさせてくれた家族会の皆さん、私の指導教員である黄先生、そして九州産業大学造形短期大学部 小田部先生、辻嶋先生、木森先生の大学の先生方、辛抱強く私に絵画、デッサン、陶芸を学ぶ機会を与えてくれました。芸術の新しい技術を向上させ、使用するよう私にやる気を与えてくれた同級

生、この体験に参加してくれた5人の留学生、ミカエラ、愛子、春花、健、フェルナンダさんに心より感謝しています。



これからも自分のアート技術を磨き続け、より多くの人たちと自分の作品を共有したいと思っています。また、日本語の勉強を続けて、この旅で出会った人々と話せるようになりたいです。ペルー福岡県人会の人々と私の経験を共有し、日系社会で私たちのルーツ、言語、習慣を知ることへの関心が高まるように、日本との絆が強化されるよう支援したいと考えています。

一年間の素晴らしい期間をありがとうございました。いつかまたお会いできることを願っています。



九州産業大学造形短期大学部

造形芸術学科

教授 黄 禧晶

(手嶋指導教員)

手嶋 儀武 さゆり ナンシーさんは、九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科絵画専攻の研究生として1年間本学で油彩技法を中心とした絵画及び、デッサン技法を学びました。手嶋さんは故郷であるペルーでも絵画制作の経験があり、基本的なデッサン力が身についていたため、実技を中心とする本学の授業にスムーズについてこられたと思います。特にデッサンの授業はペルーでは手にした事のない木炭を使った制作であったため、最初は試行錯誤しながらも粘り強く向き合う姿勢を崩すことなく取り組んでいました。その結果学期が終わる頃には在學生に負けないレベルのデッサン表現が出来るようになりました。

本学のカリキュラムの特徴上、一つの専攻だけではなく他の専攻も学べることもあり、手嶋さんは日頃興味を持っていた彫刻の授業を前期に、後期には陶芸の授業にも参加し、新たな表現を身につけることが出来たと思います。後期の授業に制作したセラミックを見せながら嬉しそうに笑っていた姿が目につかびます。

7月には本学の絵画・立体専攻展「Butterfly Effect 2023」が福岡市中央区新天町のギャラリー風で開かれており、手嶋さんは4月から7月まで制作した絵画作品を3点出品しています。制作は勿論のこと、展覧会の準備や飾りづけ、展示当番、搬出作業の全てを在學生と同等にやり遂げました。2024年1月には福岡市美術館で九州産業大学造形短期大学部の卒業制作展が開催され、半期にかけて制作した卒業制作作品の展示を行いました。手嶋さんはペルーをテーマとする絵画作品(組み合わせ)を展示しており、訪れた観客はペルーの様々な美しいものについて知ることが出来ました。展示のレイアウトを一から工夫し、教員のアドバイスなどを参考として一つ離れた故郷を想う優れた絵画作品を完成、披露することが出来ました。

最初は言葉の壁もあり、手順などの手違いも多々ありましたが、穏やかな人柄で焦ることもなく1年間の全てのスケジュールを着々とこなす事が出来、指導に関わった教員としてもやりがいを感じています。私自身かつて留學生の身分であったこともあり、手嶋さんのこの1年間の大変さは良くわかっておりました。手嶋さんは周りの倍くらいの努力を重ね、無事に今日を迎えることが出来たと存じます。手嶋さんの1年間をサポートしてきたこの1年間は私にとっても貴重な時間であり、手嶋さんのこれからの活躍を心から祈っております。頑張ってください！